

渋沢栄一 略年譜

大保川（1840）武藏国様从都並流島村（現在市町右衛門と木の長方に土まる）。

王均平 (1996) 指出所表示之模式既可视为「多生子」。原书：世界，30。

慶元2年（1266） 橋慶喜の將軍越後に付し幕臣となる

慶応3年（1867）徳川昭武の隨員としてフランスに渡航

明治元年（1868）フランスより帰国。駿府藩（静岡藩）の藩士となる。

明治2年（1869）商法会所設立。新政府に出仕し、民部省租税正、

明治3年（1870）官営富岡製糸場設置主任となる。

明治6年（1873）大蔵省を退官。第一国立銀行創立

明治8年（1875）有力華族の出資で鉄道会社結成（東京鐵道組合）、総代理人となる

明治9年（1876）東京會議所会頭。東京府養育院事務長（後に院長）となる。

明治11年(1878) 東京商法会議所創立(日本商工会議所/東京商工会議所)、会頭

明治12年（1879）末宗鉄道組合由資立、末宗海上保険創立（末宗海上自動）。

明治20年（1887）吉田松陰の死後、吉田家は吉田松陰の義理の娘（吉田千賀子）。

明治26年（1893）吉田重太介社創立 取締役山本五郎

十五年（1916）第一銀行頭取左辯職。 実業界を引退す。

大正7年（1918）『徳川慶喜公伝』全8巻發刊

大正9年（1920）子爵を授けられる。

昭和6年（1931）死去。享年91。

浄水第一が関わった事件

大坂汽船、大阪鐵道、大阪銀行業者会所・大阪交易所、大阪築島商業會所・大阪同盟銀行業者会所・大阪銀行、淀屋町筋、淀屋町筋銀座会社・博太工業、岩崎鉄道、雷門銀座、東北商業會社、東洋通運、共同精米、京都穀物、京都穀物會社・京都銀行集會所・京都鐵道、京都陶器會社・魚合

／製紙会社／生糸館／製糸会社／仙石原地所／先駆会社／千住製紙所／倉庫会社／立根船渠／横三十二國立銀行／横四十三國立銀行／第七十五回立銀行／大正銀行